



福岡ひびき信用金庫の 取り組みご紹介

～自治体等との連携に
よる中小企業支援～
～サステナビリティ推
進室の創設と取り組み～

令和7年2月7日(金)

福岡ひびき信用金庫 経営企画部

サステナビリティ推進室

室長 小茅 智弘

本日お話しすること(目次)

1. 福岡ひびき信用金庫の概要(頁2)
2. 北九州市のSDGs・GXの経緯・現況(頁3)
3. 地方自治体・地元大学・地元団体との連携(頁4)
4. 北九州市とのこれからの連携について(頁5)
5. 環境省ESG地域金融促進事業について(頁6)
6. 環境省ESG地域金融促進事業を通じて得たもの(頁7)
7. 環境省ESG地域金融促進事業を通じて学んだもの(頁8)
8. サステナビリティ推進室の創設(①～③)(頁9～頁11)
9. 持続性推進機構との連携(エコアクション21認証取得支援)(頁12)
10. e-dashの採用(頁13)
11. サステナブルファイナンスの取り組み(頁14)
12. ドアノックツールの作成(頁15)
13. 当金庫の取り組みの振り返り(頁16)



1. 福岡ひびき信用金庫の概要

設立:大正13年1月15日
本店所在地:福岡県北九州市
理事長:井倉 眞
役職員数:608名(嘱託・パート職員含)
預金残高:8,183億円(令和6年3月末)
融資残高:4,199億円(令和6年3月末)
営業区域:福岡県・下関市(山口県)・中津市(大分県)
店舗数:42店舗(令和6年5月博多支店新設)

～企業理念～

中小企業の健全な発展
豊かな国民生活の実現
地域社会繁栄への奉仕

～経営理念～

お客様と真摯に向き合い、期待を超える。
まちの元気をつくり、未来を照らす。
金庫の発展と、職員一人ひとりの幸せを実現する。

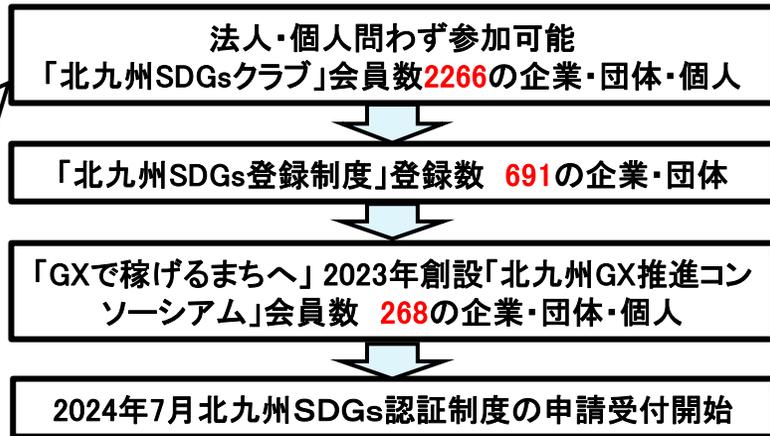
営業区域の特徴(北九州はBtoB・福岡はBtoCで発展してきた)

本店所在地である北九州市は、かつて製鉄・化学など重工業のまちとして栄えましたが、産業の中心だった製鉄所本社移転と事業場縮小で人口はピークの106万人から現在およそ90万人に減少しています。TOTO、安川電機などのものづくり企業及び、建設・サービス・物流が主要産業ですが、近年、IT・環境関連企業の市内進出が次々と決定しており、新たな雇用の受け皿として期待されています。3店舗出店している福岡市は経済の成長・人口増加が著しく、不動産・建設・卸小売・サービス・物流を主要産業としています。特に九州電力や西鉄など地場大手企業本社、国内大手企業の支店が多いことが特徴です。近年は、観光客も増加、多彩な食文化をもつ街として外国人にも人気です。



2. 北九州市のSDGs・GXの経緯・現況

会員の事業
相談窓口
「SDGs経営
サポート」も
スタート



中小企業の
SDGs・ESG
経営・脱炭
素への関心
が高い

- 「自治体SDGsモデル事業」に選定された「地域エネルギー次世代モデル事業」を推進
- 【経済面】「持続可能な産業の振興」を目指す
〈例〉洋上風力発電をはじめとする「地域エネルギーの拠点化」を推進
①クリーンな電力を企業へ供給 ②エネルギー関連企業の誘致や起業支援による雇用の創出
 - 【社会面】「生涯活躍社会の実現(人口減少・超高齢化への対応)」を目指す
〈例〉市民の健康寿命を延ばすことを目指し、高齢者が活躍できる場を提供
①高齢者雇用の促進 ②市民活動の支援
 - 【環境面】「CO2の削減による気候変動への対応や資源効率の向上」を目指す
〈例〉「環境のまち」として築いてきた、技術や経験、国際ネットワークを生かした経済面や社会面の課題解決に挑戦
①新たなリサイクル[レアメタルやPV(太陽光発電)パネル等]の取り組み
②市が提案するモデルを世界に発信し、世界規模のCO2の削減に貢献する「環境国際協力・ビジネス」に繋げる

北九州市では「SDGs」・「GX」のスタートアップが誕生中

日本製鉄OBが開発した「塗布する場所を選ばない光触媒による抗菌技術」が注目され、コロナ流行中に全国の学校体育館床塗装などに広く採用されました。

商用EVメーカーが若松区で起業、組立・検査工場を建設稼働中。現在塗装工場を建設中。(当金庫もSDGs経営サポートがきっかけで支援に参加)。

【北九州市のSDGs・GXの経緯】

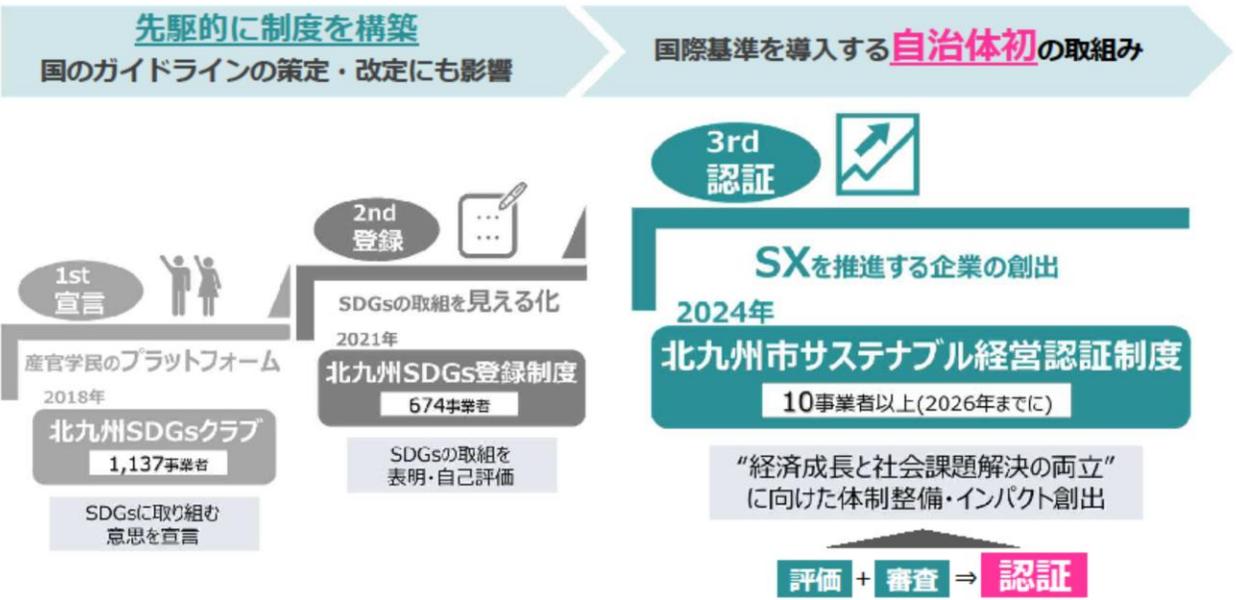
- 2011年 グリーンアジア特区(福岡県・福岡市と共同申請)
- 2013年 市政50周年記念として市民が出資する「市民太陽光発電所」を設置
- 2015年 地域エネルギー会社(株)北九州パワー設立
- 2016年 バイオマス発電所設置
- 2018年 北九州響灘洋上ウインドファーム風力発電設置構想基本協定締結
- 2018年 SDGs未来都市に選定
- 2018年 北九州SDGs未来都市計画公表「北九州市のSDGs戦略(ビジョン)」 「真の豊かさ」にあふれ、世界に貢献し、信頼される「グリーン成長都市」
- 2018年 **北九州SDGsクラブ創設**
- 2020年 **ゼロカーボンシティ宣言**
- 2021年 **北九州SDGs登録制度創設**
- 2021年 北九州市気候非常事態宣言
- 2021年 気候変動対策にみんなで取り組むプロジェクト「KitaQ Zero Carbon(キタクューゼロカーボン)」で市民一人ひとりのゼロカーボンアクションを可視化、参加者に「actcoin(アクトコイン)」ポイントを付与するアプリをリリース
- 2022年 **脱炭素先行地域に選定(18市町村)**
- 2022年 北九州市グリーン成長戦略
- 2022年 「北九州市SDG-Xリーディングプロジェクト補助金」公募
- 2023年 **「北九州GX推進コンソーシアム」創設**
- 2024年 EVスクールバス補助金公募
- 2024年 **北九州市サステナブル経営認証制度のリリース**

3. 地方公共団体等・地元大学・地元団体との連携

北九州市	福岡県	地元団体	大学・高校など
<p>・北九州市と市内15金融機関(現在20に増加)のSDGs促進に関する連携協定締結(2020年1月)</p> <p>・SDGs経営サポートに参加(上記金融機関に経営課題を相談するスキーム)</p> <p>・北九州SDGs登録制度創設へ委員として参画(2020年)</p> <p>・信金中央金庫70周年事業「SCBふるさと応援団」で北九州市が実施する「SDGs先進企業動画制作」に寄付</p>  <p>市役所でのふるさと応援団の寄付金贈呈式</p> <p>・北九州市の内閣府「地方創生SDGs金融表彰」申請に地域金融機関として協力(福岡銀行と当金庫が2次面談に参加、無事受賞)</p> <p>・北九州環境ビジネス推進会に特別会員として参加</p> <p>・北九州循環経済ビジョン協議会に監事として参加</p> <p>・北九州GX推進コンソーシアムに参加</p>	<p>・福岡県SDGs登録制度創設へ委員として参画(2021年度)</p> <p>・福岡県SDGsロゴマーク選定委員</p> <p>・福岡県主催SDGsセミナーにスピーカーとして登壇(2022年度)</p> <p>・福岡県主催SDGsセミナーに当金庫のお客さまと一緒に登壇(2023年度)</p>  <p>SDGsに取り組む企業の経営者や担当者の方におすすめ!</p> <p>福岡県SDGs推進セミナー</p> <p>福岡県では、SDGsに積極的に取り組む企業や団体を広く周知し、SDGsへの貢献を「見える化」することで、企業等の取組を支援する「福岡県SDGs登録制度」を推進しています。この度、SDGsの推進に積極的な事業者の取組と、それを伴走支援する金融機関の取組を紹介するセミナーを開催します。SDGsをどのように経営に取り入れ、実践していけばよいか、取組事例を通じてわかりやすくお話しさせていただきます。</p> <p>2023年 11/14(火) 14:00~16:00</p> <p>対象者 SDGsに関心のある企業や団体、個人事業主の方</p> <p>開催形式 Zoomによるオンライン開催</p> <p>参加方法 申込フォームから事前申込み</p> <p>定員300人</p> <p>SDGsに取り組む事業者と伴走支援する金融機関の取組を紹介します!</p> <p>事例① 株式会社ドワーテクノ × 株式会社西日本シティ銀行</p> <p>事例② 株式会社堀内電気 × 株式会社福岡銀行</p> <p>事例③ ヨシミ工業株式会社 × 福岡ひびき信用金庫</p>	<p>・北九州環境ビジネス推進会(KICS)の特別会員になったことで「九州地方環境事務所」、「公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)北九州アーバンセンター」との関係が深まり、その後の「環境省ESG地域金融促進事業」への申請へとつながりました。</p> <p>・北九州SDGsクラブでは以下のプロジェクトに協力しています。</p> <p>(1)KAMIKURUプロジェクト</p> <p>エプソンの機械で使用後の西洋紙を水を使用せず再生紙にする作業を就労支援施設通所者が業務として行います。</p> <p>(2)こども大エプロジェクト</p> <p>就労支援施設が建築木材の端材で組立椅子のキットを製造し、幼稚園などで組立体験のイベントを行うものです。</p> <p>【その他】</p> <p>・21世紀金融行動原則のヒアリング対象になる。その後、様々な情報提供を受けることができました。</p> <p>・持続性推進機構のパイロット金庫に選定される。地域事務局「環境未来」と連携関係を築きました。</p> <p>・当金庫お客さまとJICA九州のSDGs海外進出事業について、信金中央金庫のインタビューを受けました。</p>	<p>・SDGsの認知度向上目的で、福岡ひびき経営大学の講義をSDGsをテーマに九州国際大学にて開催(2020年度)</p> <p>・北九州市立大学とJTB北九州支店による北九州SDGsクラブのプロジェクト「SDGs修学旅行Re.think yahata」に説明役として参加しています。</p>  <p>今年の5月は鹿児島県の中学生に本店建物の歴史を説明しました</p> <p>・北九州市立大学地域創生学群からは、高校でのSDGs講座への登壇、大学内での学生と地元企業によるSDGsをテーマとしたワークショップへ参加しました。</p> <p>・地元高校からは生徒による「校内SDGsコンテスト」の審査員として参加しました。</p>

4. 北九州市とのこれからの連携について ～北九州市サステナブル経営認証制度～

サステナブル経営のトップランナー・北九州市



「自治体初」の3つのポイント

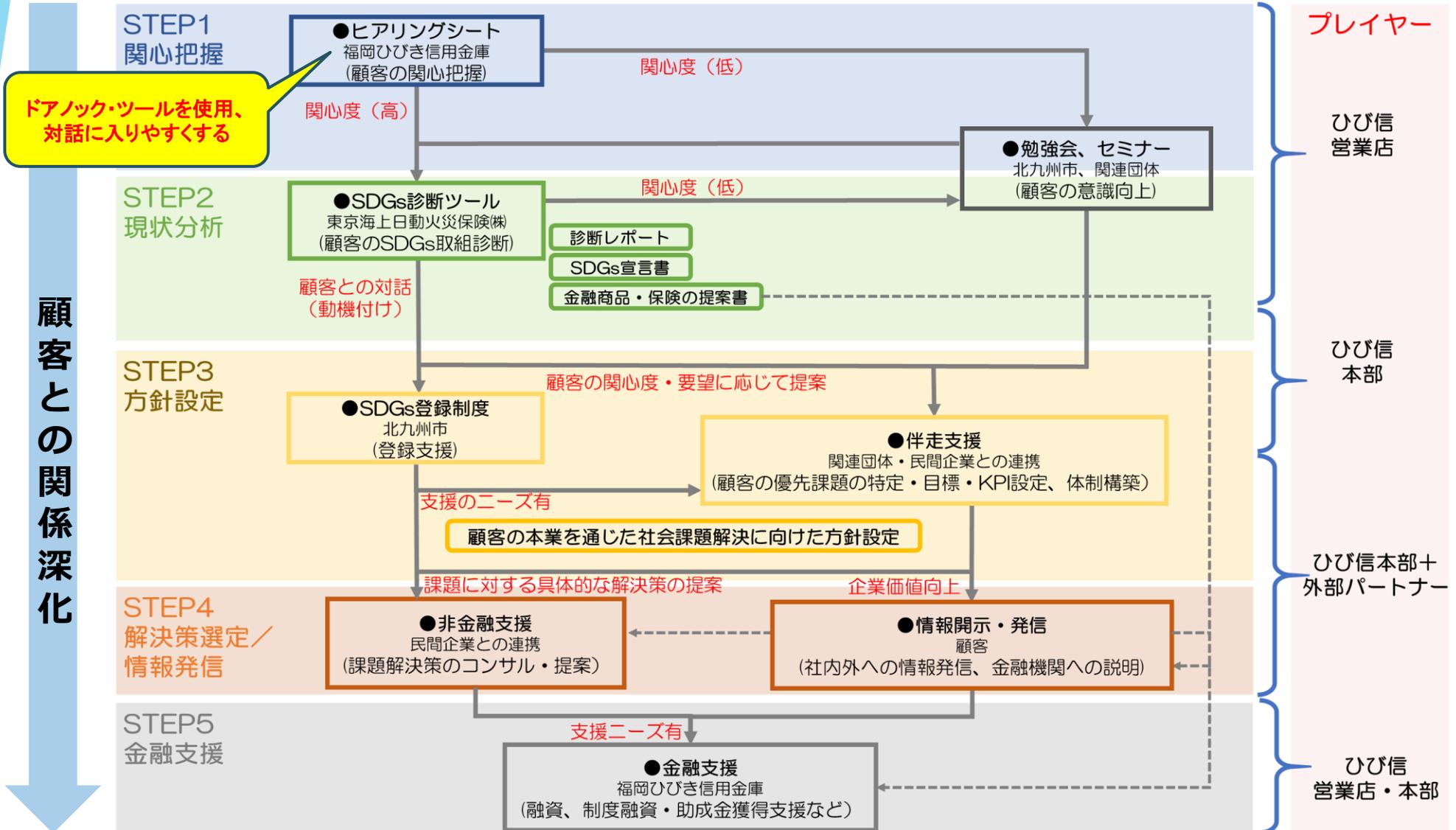
-  国際基準に沿って、**インパクト創出**までを後押し
-  ESG投資基準に沿った、**評価・審査スキーム**
-  国の支援メニューと連携し、**利子負担を軽減**

北九州市独自の取組は、有識者からも高い評価を受けています

北九州市は2024年7月に「北九州市サステナブル経営認証制度」をスタートさせました。本制度はこれまでの「登録」からさらに「認証」へとランクアップしたもので、**第三者評価**を受けること、**二段階認証**(G1・G2)を制度の柱としています。2026年までに10事業者程度の認証とハードルは高いですが、認証企業はサステナビリティ・リンク・ローン・利子補給による金融支援など様々なサポートを受けることができます。当金庫も制度設計段階から地域金融機関として会合に参加して意見を伝えてきました。今後、認証を受けた企業の伴走支援など北九州市との連携に取り組みます。

5. 環境省ESG地域金融促進事業について

＜SDGs/ESGの観点から顧客との対話と伴走型支援のためのフロー図＞



ドアノック・ツールを使用、対話に入りやすくする

2021年度、2022年度の2年連続で「ESG地域金融促進事業支援金融機関」に申請・採択されました。2021年度は仕組みを検討、2022年度は実践方法について検討し、実践フロー図を公表。現在はこのプランを一部修正し、STEP1のヒアリングシートをドアノックツール・リーフレットでのアプローチに変更しています。

6. 環境省ESG地域金融促進事業を通じて得たもの

「ESG地域金融促進事業」では北九州市と地元民間団体と連携し、SDGsを起点とした取引先伴走支援の仕組みを検討。採択後、野村総研を始め多方面からサポートを受けることができました。

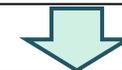


採択されたことで庫内のSDGs・ESG金融への理解が深まることになり、他部署の協力を得やすくなりました。
促進事業を契機に金庫内に「SDGs推進部会」を発足、SDGs・脱炭素・ESG金融の取り組み状況を広く他部署と共有していくことになりました。



支援金融機関に採択され、環境省のホームページを見た北九州市周辺の市町村のSDGs担当者から情報交換の連絡が入ったこともありました。当金庫にとって良いPRになりました。

地元支援機関のIGES北九州アーバンセンターとの協力関係を深めることができました。SDGs推進部会部会員や金庫職員向けにIGESの方にSDGs研修をお願いすることができました。



日本国内に4カ所しかないIGESの拠点が当金庫本店の近くにあることは非常に幸運でした。IGES北九州アーバンセンターについては、環境省ESG地域金融促進事業が終了した後も「北九州環境ビジネス推進会」、「北九州循環経済ビジョン協議会」、「北九州市サステナブル経営認証制度」の取組みで連携を継続しています。また、IGESの関係で九州経済産業局が主催する「九州地域J-クレジット制度ネットワーク連絡会議」に地域金融機関として参加しています。

7. 環境省ESG地域金融促進事業を通じて学んだもの

促進事業では、「ESG金融」に取り組むにあたり、事務局・専門家から多くの参考になる意見・アドバイスで当金庫の進む方向性が見えてきました。

金庫・職員に対して	お客様に対して
職員が腹落ちするよう研修などに力を入れる。	SDGs・脱炭素取組支援は「事業性評価」そのものであり、「ひびしんSDGs診断」をきっかけとして対話を進め、事業内容を深掘り。
金庫の好事例集・対話マニュアルを作成する。	
「信用金庫らしく」を念頭に支援に取り組む。	伴走支援先の「北九州SDGs登録制度」登録支援など中小企業に寄り添った対応。お客様の目指す将来の姿と一緒に考える。対話しながら可視化を支援する。
グリーンウォッシュとならないよう注意しながら、金庫本業に結び付ける。金庫業績優先の取り組みは「ESG金融」ではない。	
当金庫が過去実行してきた融資には、「ESG金融」に該当する融資があるはずなので、資金用途などから事例を発掘。伴走支援の好事例を営業店に紹介して「ESG金融」を腹落ちさせ、理解を深める。	金庫職員が、ESGの視点でお取引先の事業を深掘りして、企業価値向上を目指し伴走支援すれば、結果、お客さまからの評価も高まり金庫の価値向上にもつながる好循環が生まれることを期待。

8. サステナビリティ推進室の創設①

お客さまのSDGs・脱炭素支援を加速するため令和5年4月「サステナビリティ推進室」を創設。

SDGsのゴールから取り組むものを絞り込む→まずはSDGsの周知と脱炭素・GXに関することに決定。

なぜ脱炭素・GXを優先して取り組むことにしたのか？

北九州市民
は環境への
感度が高い!!

北九州市は脱炭
素・GXで地域経
済活性化を目指
している!!

北九州市は「SDGs未来都市」に第一期で選定されるなど、サステナブルに関する取り組みが早く、それ以前から「低炭素」への取組みに積極的でした。現在は、政府も脱炭素・GXで産業振興を目指す方向に進んでいます。金庫も早く脱炭素支援に取り組まないと、地域の産業構造の変化に対応できない。そして金庫自身がカーボンニュートラルに取り組まなければ、お客さまに対して説得力に欠けると考えたからです。

地域金融機関として北九州市のゼロカーボンシティの取組みに連携してお取引先・地域企業の脱炭素支援に取り組めます。

金庫とお取引先の価値向上につなげます。

北九州市のゼロカーボン目標

2030年目標 2013年比47%以上削減

2050年目標 ネットゼロ達成

当金庫のゼロカーボン目標

2030年目標 2022年比46%以上削減

2050年目標 ネットゼロ達成

8. サステナビリティ推進室の創設②

「サステナビリティ推進室」これまでの主な取り組み

金庫向け施策	お客さま向け施策
支店長・営業店向け研修・勉強会の実施 令和6年度月1回オンラインで実施	包括連携協定を結んだ三井住友海上火災 保険と共催で「脱炭素セミナー」開催
e-dashを利用して金庫CO2排出量データ 作成、ディスクロージャー誌でデータ公表 今後は削減目標設定と実績公表	包括連携協定を結んだ東京海上日動火災 保険・中小企業家同友会北九州支部と共 催で会員向け「SDGsセミナー」を開催
太陽光PPA・LED照明への交換で再生可能 エネルギー利用・省エネ機器への更新を金 庫に提案	東京海上火災保険の支援ツールを使用し た「SDGs行動宣言」の策定支援「 ひびしん SDGs診断 」を無料リリース
サステナビリティ・リンク・ローンフレーム ワーク組成など、サステナブルファイナンス の取扱研究・企画・組成	「北九州SDGs登録制度」登録支援 エコアクション21認証取得支援を継続 持続性推進機構との連携を強化
金庫各種方針公表→人権方針などを策定	ひびしん同友会会員向け出前勉強会実施
TCFD提言に基づく気候変動対策について 順次情報開示に向け準備	「 e-dash 」紹介取り扱いスタート 排出量可視化と削減サポート
ディスクロージャー誌の環境関連について 充実化を進める	令和6年10月、サステナビリティ・リンク・ ローン(ひびしんSLL)リリース



同友会支部のSDGs勉強会実施風景



三井住友海上火災との共催「脱炭素セミナー」実施風景

8. サステナビリティ推進室の創設③

新設部署・新規業務ということで、金庫職員へ業務内容を認知・理解してもらうことが最も重要だと実感しています。GX・サステナビリティは国内外で変化を続けており、最新情報の収集も重要です。

良かった点	困った点
<ul style="list-style-type: none"> ・経営サイドの理解を得てトップダウンでスタートした新設部署・新規業務であり、様々チャレンジできる環境。 ・信金中央金庫や先進金庫を参考にしたり、アドバイスを受けることができ、関係を深めることができた。 ・SDGs・脱炭素支援に取り組む部署としてお客さまにも好意的に受け入れてもらえ、北九州市や福岡県の担当部署からも期待してもらえた。 ・優秀な若手人材が配属され、人材育成の場になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規業務のため、前例や雛形がなく関係部署への説明に十分な資料準備と分かりやすく説明する配慮が必要だった。 ・金庫のCO2排出量データ作成にあたり、資料の収集に時間がかかった。 ・金庫職員にSDGs・脱炭素支援業務に「お客さまのニーズがあるのか」という懐疑的な声も多く、必要性を腹落ちしてもらうのに時間がかかる。 ・営業店がお客さまに気軽に声掛けができるツールと手法の検討に時間を要した。



サステナブル通信

2023年12月25日 VOL.5 サステナビリティ推進室

【アンケートのご協力ありがとうございました】
 <SDGsに関するアンケート 実施期間 2023.9.5~9.30 回答者 530名>

本アンケートは金庫のSDGs、ESG金融、脱炭素にかかわる取り組み強化に向けて、役職員の皆さんの認知度・浸透状況を把握し、効果的な研修や情報提供を検討すべく実施させて頂きました。ご協力ありがとうございました。

2015年9月に国連総会で「SDGs(持続可能な開発)」が採択されてから、8年が経過しました。今では「SDGs」という言葉を聞いたことがないという方は少なくなつたと感じる一方で、アンケート結果(一部抜粋)からも分かるように、「SDGs」について理解できているという方はまだまだ多くない印象です。しかしながら、SDGsを起点として「ESG金融」「脱炭素(カーボンニュートラル)」「GX」「サーキュラーエコノミー」等々、様々な取り組みが加速度的に広がっており、私たちのお取引先へ取り巻く環境も日々変化しています。お取引先へ必要且つ有益な情報発信を行っていくため、まずは私たち自身のSDGs意識を高めていきましょう!



次号以降のサステナブル通信では皆さんのご意見の多かった内容を中心にお伝えしていきます!

【カーボンニュートラル対策セミナーを開催します!】
 <開催日時 2024.1.24(水) 15:30~17:00 @当金庫本店6階研修室>



今回、企業の脱炭素取組支援で先行するMS&ADインターリスク総研様より講師を招き、カーボンニュートラルの基礎から、国内企業の取組事例までお話しセミナーを開催することとなりました。脱炭素に関しては早めの取り組みが鍵となります。参加費も無料となっておりますので、ぜひお取引先へご案内ください。



詳しくは、12月22日発行の連絡文書にてご確認ください。

営業店の認知度と理解を深めるため、社内通信を作成したり、認知度アンケートをしました。

9. 持続性推進機構との連携(エコアクション21認証取得支援)

ESG地域金融促進事業に参加したことで、信金中央金庫・持続性推進機構からお声がけいただき、当金庫は環境経営取組支援を伴走支援の一つの柱にすることに決定しました。

- ・2022年に持続性推進機構中央事務局からパイロット金庫に選定→令和4年度は3社が認証取得
- ・エコアクション21地域事務局(環境未来)と連携
- ・令和5年度は環境省のAPでの認証取得支援→実践講座に3社が取組み(1社認証取得済)
- ・令和6年度「エコアクション21導入セミナー」「エコアクション21実践講座」(8社参加)を実施済



令和6年度エコアクション21実践講座の風景

10. e-dashの採用

2023年は金庫の情報開示のために採用→2024年お客さまへの紹介業務をスタートしました。今はまだ、オンライン勉強会・支店回り・同行訪問などでサービスの認知度向上に取り組んでいる段階です。人手不足の中小企業が、正確な自社GHG排出量データを作成することは大変です。「e-dash」に限定されませんが、有料クラウドサービスのメリットは必ずお客さまに響くと思います。



福岡ひびき信用金庫 お客様向けご案内

成長は、削減しない。
e-dashと「脱炭素」を企業の強みへ

拠点数に応じて
月額1万円～
(税別)

edashとは？
可視化や報告を叫ぶクラウドサービスと削減の検討や
実行を決定する専門家の支援が一体となった、脱炭素の
総合的なサービスプラットフォームです。

企業にとっての2つの「脱炭素化」

経営戦略の脱炭素化 知財企業による事業リスクを軽減し、世の中への 企業多様性を高め成長のチャンスへ	事業活動の脱炭素化 自社の自由財を把握して、削減への アクションを特社・実行
---	--

「脱炭素経営」が事業成長へもたらす
5つのメリット

競争力の強化 顧客や取引先からの 支持を得る	社員の意識向上 アステナブルな企業へ 会社一体で取り組む	持続可能な成長 社会的責任を果たし、 人材採用で選ばれる企業へ
好条件での資金調達 取引での金利優待や 補助金も獲得	コスト削減 削減費や廃棄物の削減で、 収益を最大化	

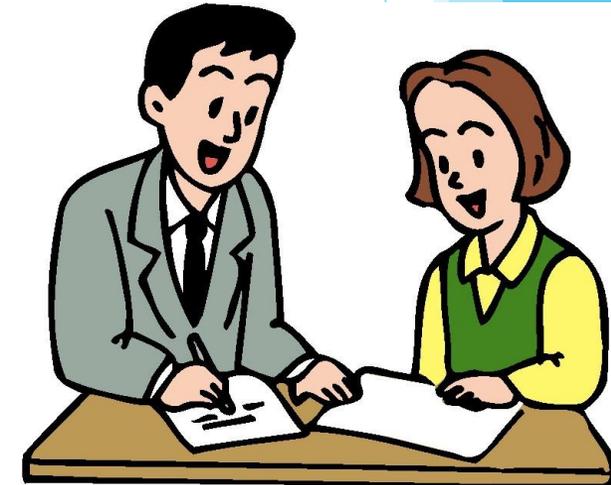
まずは詳しい説明を聞いてみるませんか？ お近くの営業店までお問い合わせください！

<https://e-dash.io> 詳しくは裏面へ >>



支店職員からの
同行訪問要請も
徐々に増えてい
ます。

同行訪問だけでなく
お客さまを当室が
個別に訪問する機
会も増えています。



北九州市の中小企業にも脱炭素の気運が徐々に高まり、お客さま訪問時に「e-dash」の利用が拡大する手応えを感じています。

11. サステナブルファイナンスの取り組み

競合する地銀や先進金庫がSDGs・脱炭素支援で大きく先行しており、地域企業の脱炭素支援に取り組むため、当金庫も出口商品としてサステナブルファイナンスをリリースする必要性を実感しました。



「e-dash」の推進と並行して、信金中央金庫の「サステナビリティ・リンク・ローンフレームワーク(SLLFW)組成サポート」を活用したサステナブルファイナンスの商品企画に取り組みました。本商品はお取引先にCO2排出量の削減・脱炭素に取り組んでいただくことが第一の目的です。お取引先に野心的なCO2排出量の削減目標を設定していただき、CO2排出量削減の取組みを金庫ホームページでPR、企業価値を社内外に示し、営業活動にみ活かしてもらいます。サプライチェーン全体での脱炭素が加速しており、この商品はお客さまの事業に貢献できるものと考えています。「ひびしんサステナビリティ・リンク・ローン(ひびしんSLL)」は2024年10月にリリース、現在1号案件に取り組み中です。



地域脱炭素を加速するため、小規模企業・個人事業主が利用できる条件・金額がコンパクトな事業性ローンの企画に取り組んでいます。サステナビリティ・リンク・ローンと異なり、野心的な削減目標設定ではなく、出来る範囲の排出量削減目標を企業側が設定、排出量データも、無料ツールで作成したデータでも有効とする商品にする予定です。



12. ドアノックツールの作成

SDGs経営をサポート

Action 1

SDGsを経営に取り入れたい
ひびしんSDGs診断・SDGs宣言策定支援

- SDGs診断では、貴社の環境や社会・職場環境、組織体制などに関するお取組みをお伺いして作成した診断レポートの結果をもとに貴社のSDGsの取組み状況が「見える化」ができます。
- SDGs診断の結果をもとに、貴社オリジナルのSDGs宣言書の策定をご支援いたします。



チェックシートを用いた
貴社へのヒアリング

貴社オリジナルの
SDGs宣言書の策定

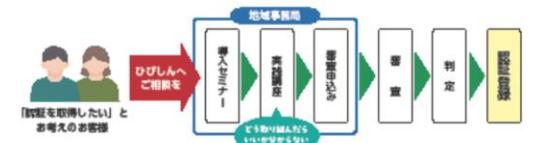
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えようための17の目標

環境経営システム構築のサポート

Action 3

環境経営に取り組みたい
自治体の入札資格に役立つ認証を取得したい
エコアクション21認証登録支援事業

- 環境省が策定した総合的な環境マネジメントシステムである「エコアクション21」の認証取得を持続性推進機構と連携してサポートいたします。
- 把握すべき負荷項目・取り組むべき活動（エネルギー・水の使用量・廃棄物排出量の削減など）が決まっており、実務に応じて段階的に柔軟に項目・活動を広げることも可能なため、中小企業も比較的取り組みやすい内容となっています。



「認証を取得したい」と
お考えのお客様

ひびしんへ
ご相談を

導入ガイダンス
申請書
審査
判定
登録

地域事務局

ご質問・ご相談
お問い合わせください

CO₂排出量の見える化

Action 2

カーボンニュートラルに取り組みたい
e-dash (CO₂排出量算出クラウドサービス)

- 月に1回、請求書の画像データをアップロードするだけで、事業活動を通じて排出されるCO₂排出量を手軽にデータ化できます。（排出量の算出方法は大手監査法人による第三者検証を実施済）
- 算出した排出量データは補助金申請などにも利用可能です。
- CO₂排出量だけでなくエネルギー使用量・コストも「見える化」できます。



請求書をスキャン

e-dashへアップロード

あとはe-dashが見える化
削減目標の設定▶削減実行まで
トータルサポート！

edash × **福岡ひびき信用金庫**

サステナブルファイナンス

Action 4

自社の脱炭素経営の取り組みをPRしたい
ひびしんサステナビリティ・リンク・ローン

サステナビリティ・リンク・ローンの特長

- CO₂排出量削減への取り組みをローンでサポートします。
- CO₂排出量削減目標達成により金利が優遇されます。
- ローンの実行及び貴社の排出量削減に関する取組みを当金庫のホームページで公表して社内外にPR、貴社のサステナビリティ経営を後押しします。

*所定の融資審査があります*所定の融資手数料を申し受けます*別途、e-dashとの契約が必要となります



お客様

サステナビリティ・リンク・ローン実行

実績レポートを1回提出

CO₂削減のサポート・目標達成時の金利優遇

福岡ひびき信用金庫

レポート取得

e-dash(第三者機関)

本行はサステナブルな企業を応援する「サステナブル・リンク・ローン」(環境配慮型)の提供を推進しています。

- CO₂排出量削減に対する目標設定
- CO₂排出量の算定

サステナビリティ・リンク・ローンのリリースを契機に入口から出口までの流れができたので**営業活動用ドアノックツール**を作成しました。(4頁見開きリーフレット)

13. 当金庫取り組みの振り返り(環境省ESG地域金融促進事業の成果)

北九州市では自治体・民間団体のSDGs・脱炭素支援の認知度は高く、関心も高いです。



SDGs・脱炭素支援について、お客様や当金庫職員の知識や腹落ちはまだまだです。



職員の知識向上のため、今年度は月1回オンライン勉強会を実施しています。



お客さま向けに出前勉強会などを開催、後日同行訪問時にSDGsや脱炭素をキーワードに対話をすれば「商品勧誘されるのでは？」という警戒心がなく、経営者の潜在的な設備投資需要を知ることができています。



脱炭素に取り組みたいお客さまには、**省エネ診断**をお勧めしています。そしてGHG排出量可視化ツールとして「e-dash」を紹介。省エネ関連の補助金情報はお客さまの関心が高いです。

SLLFWの組成とリリース→脱炭素に積極的に取り組むお客様のPRのため受け皿が必要(まずは品揃え)です。信金中央金庫の支援を受け、庫内関係部署と連携「ひびしんSLL」を2024年10月にリリース。



SLLの次はPIFの組成に取り組む予定です。北九州市からは現在公募中の「北九州市サステナブル認証制度」の企業評価・審査とリンクしたサステナブルファイナンスの組成を期待されています。



お客さまにSDGs・脱炭素に取り組んでいただき、**お客さまの企業価値向上**を支援します。また、当金庫自身も脱炭素経営に取り組みながら、TCFD提言に基づいた気候変動対策の策定・情報開示など情報発信も行います。SDGs・脱炭素の話題は「GX」だけでなく、「DX」、「SX」など様々な経営課題について経営者の考えを聞くことができるコンテンツです。



福岡ひびき信用金庫のふるさと北九州市は、公害のまちから市民・企業・自治体が連携して環境改善に取り組む、青空と豊かな海を取り戻したことで現在は環境先進都市と呼ばれるまでになりました。2050年のカーボンニュートラル達成に向け、北九州市が地域脱炭素推進で先導的な自治体となるために当金庫も地域の中小企業支援に取り組んでまいります。

ご清聴ありがとうございました

青い空と海と工場が共生する北九州市の風景（皿倉山山頂より撮影）